

研究主題「目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように

書き表し方を工夫できる児童の育成

—小学校国語科における、他者と協働して『書き直す』学習活動を通して—

東京都教職員研修センター研修部授業力向上課

練馬区立豊玉小学校 主任教諭 菊地 良太

第1 研究のねらい

インターネットの普及により、誰もが不特定多数の他者へ大量に情報を発信できる時代を迎えている。そのような状況から、相手のことを想像しながら書くことの重要性が高まっている。今後小学校において、児童が目的や意図に応じて（相手や場面、状況を考慮することなども含む）、書き表し方を工夫する力を身に付けることが、さらに重要となっていくと考える。

しかし、全国学力・学習状況調査報告書（令和元年7月）では、国語科の第5学年及び第6学年の「B 書くこと」(1)ウ「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」に関する設問の全国平均正答率が28.9%、東京都では28.3%であり、全ての設問の中で最も正答率が低かった。

そこで、本研究では、児童が他者の考えを取り入れ、文章を「書き直す」ことで、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力を身に付けることをねらいとし、他者と協働して「書き直す」学習活動を開発することとした。

第2 研究仮説

小学校国語科の書くことの学習において、他者と協働して「書き直す」学習活動を指導過程に位置付ければ、児童は、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるであろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

小学校学習指導要領解説国語編（平成29年7月）では、「考えの形成、記述」について「自分の考えを明確にし、書き表し方を工夫すること」、「推敲」について「書き表し方などに着目して文や文章を整えること」と示されている。そこで、書き表し方の指導を効果的に行うために、「考えの形成、記述」と「推敲」の指導を関連付ける必要があると考えた。

先行研究からは授業において、下書き等の学習において他者との協働の場を設定することに課題があるとともに、他者との協働の場を設定することは児童が自分の考えの伝わり方を確認する上で効果的であることが分かった。こうしたことを踏まえ、小学校国語科の書くことの学習において、他者と協働する学習活動を指導過程に位置付けることにした。

2 調査研究

「考えの形成、記述」、「推敲」について、都内公立小学校1校の第5学年児童83名と学級担任の経験がある教員19名を対象に質問紙による意識調査を行った。

文章を書くときに、第5学年及び第6学年の「考えの形成、記述」の指導事項に関することを「気を付けている」又は「やや気を付けている」と回答した児童の割合は、全体の約70%であった（図1）。また、「考えの形成、記述」については、「題材の設定」等、他の項目に比べ

難しさを感じている児童や指導の難しさを感じている教員の割合が高かった（図2上段）。これらのことから、児童は書き表し方を工夫しようとして意識しているが、実際に表現することに難しさを感じており、教員もその指導に難しさを感じている傾向があることが分かった。

実際に文章を書き直す「推敲」については、他の項目に比べ指導の難しさを感じている教員の割合が高かったが、予想に反して難しさを感じている児童の割合は低かった（図2下段）。また、児童に聞き取り調査を行ったところ、「推敲」の際、誤字脱字等の加筆・修正を意識している児童は多かったが、書き表し方の工夫について意識している児童は少なかった。これらのことから、推敲の際に教員が指導したいことと、児童が推敲しようとしていることに違いがあるのではないかと推察した。

以上の調査及び分析を踏まえ、「考えの形成、記述」では、書き表し方の工夫について理解するための学習活動、「推敲」では、書き表し方の工夫を観点にして文や文章を整えるための学習活動を重視することとした。

3 開発研究

目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる児童を育成するために、他者と協働して「書き直す」学習活動を以下のように考えた（図3）。

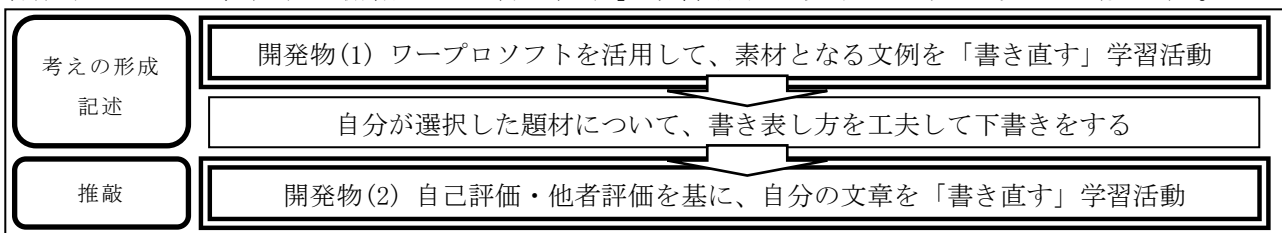


図3 他者と協働して「書き直す」学習活動

(1) 「考えの形成、記述」：ワープロソフトを活用して、素材となる文例を「書き直す」学習活動

教員が作成した素材となる文例を実際に目的や意図に合うように工夫して書き直すことで、児童は書き表し方の工夫について具体的に理解するとともに、自分の文章を書く際にも、書き表し方を工夫して書くことができるようになる考えた。書き直す際には、他者の考えを取り入れて工夫したことのふさわしさについて考えることができるように、学習活動はペアで行うとともに、繰り返す

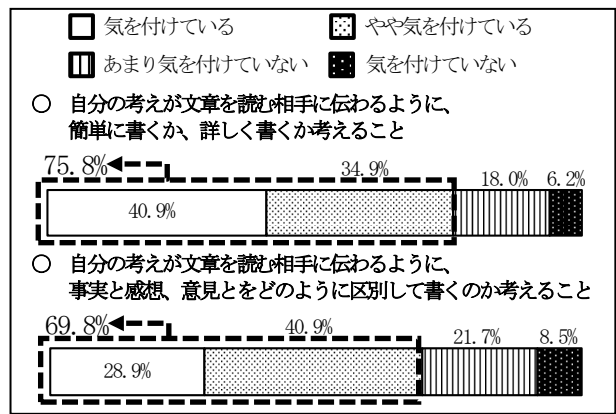


図1 書くときに気を付けていること（児童）

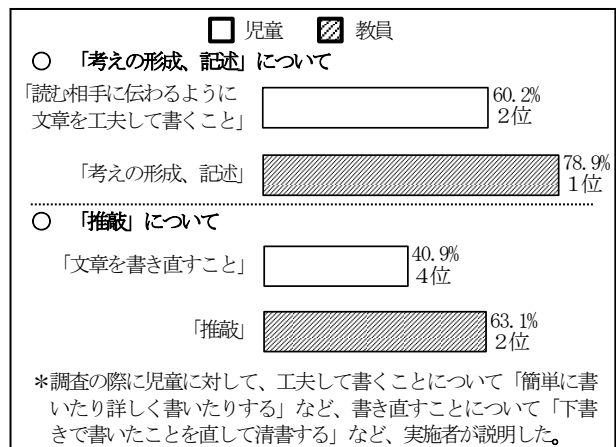


図2 書くときに難しいと感じること（児童）
 指導が難しいと感じること（教員）
 （複数回答）

どのよう な工夫 を書いたか	夫のような工夫を書いた	ど の よ う な 工 夫 か	なぜ工夫したのか
工夫した理由を書いた	夫が書いた理由	夫が書いた理由	なぜ工夫したのか

図4 工夫発見シート

「目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できる児童の育成
 -小学校国語科における、他者と協働して『書き直す』学習活動を通して-

返し書き直しながら考えることができるように、加筆・修正を行いやすいという利点をもつワープロソフトを活用する。さらに、児童が工夫したことを記録し全体の話合いの場で発表できるように、工夫発見シート（図4）を作成した。

(2) 「推敲」：自己評価・他者評価を基に、自分の文章を「書き直す」学習活動

下書きした後に自分で見直す（自己評価）、児童同士で互いに読み合う（他者評価）、もう一度自分で見直す（自己評価）、という3回の評価を生かすことで、より適切に文や文章を整えることができるようになると思った。そこで、評価したことを記録し、推敲する際に生かせるように、評価シート（図5）を作成した。評価は、前時までに学習した書き表し

どのような工夫か	なぜ工夫したのか	友達からのアドバイス等	友達からのアドバイスを受けて考えたこと
1年生に伝わるように、本の紹介を短く簡単に書く工夫	長い文だと読みづらいと思ったので、「この本は冬にびったりな工作について書いてあります」と短く簡単に書いた。	冬にびったりな工作の事例があるとよいと思う。	冬にびったりな工作の事例を、文章の中に入れてみたいと思う。
推敲の観点を書く	工夫した理由を書く	他の児童がアドバイスを付箋に書いて貼る	アドバイスを受けて、考えたことを書く

図5 評価シート

方の工夫を推敲の観点にして行う。本時のねらいに基づき、教員が指導の重点とする書き表し方の工夫を推敲の観点として一つ示すとともに、その他の観点については、児童が設定するようにした。

4 検証授業（令和2年11月実施）

都内公立小学校第5学年児童（86名）を対象に、国語科「この本、おすすめします」で検証授業を実施し、第1学年及び第2学年の児童に本を推薦する文章を書く活動を行った。文章の構成は、始めを本の紹介、中を推薦する理由、終わりを呼びかけとし、教材の特性を踏まえ、「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること」に重点を置いて指導を行った。

(1) 「考えの形成、記述」：ワープロソフトを活用して、素材となる文例を「書き直す」学習活動

学習活動を通して、「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること」の理解について分析した（表1）。

表1 目的や意図に応じて、書き表し方を工夫して書き直したペア

ペア	ペアで取り入れた工夫	工夫した理由	工夫して書き直したこと
ペアA	目的や意図に応じて簡単に書く	動物の事例が多くて読みづらいので、動物の事例を少なくして簡単に書いた方がよい。また1・2年生が知っている動物がよい。	6つの事例を3つにした。事例は、動物園にいる動物や身近にいる動物の中から、1・2年生も知っていると思う動物だけ書いた。
ペアB	目的や意図に応じて詳しく書く	「身近な生き物」だと1・2年生によく分からない。どのような動物が書かれているか詳しく書いた方がよい。	「身近な生き物」を「ハムスターやモルモットなどの身近な生き物」と事例を挙げて書いた。
ペアC	目的や意図に応じて簡単に書く	「意外な知識」は1・2年生にとって難しいと思うので、簡単な言葉にする。	「意外な知識」を「あまり知らないこと」と書いた。

工夫できたペアAやBの児童は、相手のことを考え、事例の数を減らして簡単に書いたり、事例を挙げて詳しく書いたりしていた。また、他のペアは、動物についての事例を「いろいろな動物」等、短い言葉で簡単に書いたり、「たくさんの情報」を「動物についてのたくさんのこと」等、具体的に詳しく書いたりしていた。

工夫できなかったペアCの児童は、「簡単に書くこと」を「難しい言葉を易しい言葉にすること」と捉え、相手のことを考え、難しい言葉を易しい言葉にしたり、漢字に振り仮名を振ったりすることに集中し、文や文章を短く簡単に書くことに意識が向かなかった。「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること」ができるように、書き直す方法や箇所を示すなど、ペアの様子を適切に見取り、指導・助言に生かす必要があった。

(2) 「推敲」：自己評価・他者評価を基に、自分の文章を「書き直す」学習活動

学習活動を通して、児童の文章がどのように変容したのか分析した（表2）。

表2 下書きから清書にかけての児童の文章の変容

児童	☆下書き（一部抜粋） ★工夫した理由 *下線は工夫したと児童が線を引いた箇所	友達からの アドバイス等	友達からの アドバイスを 受けて 考えたこと	清書における修正点
児童A (ペアA)	☆この本は、冬にびったりな工作や楽しく遊べて簡単にできる工作がのっていま す。 ★短い言葉で簡単に書いた方が、1・2年生が読みやすいと思ったから。	冬にびったりな工作の具体的な事例があるとう よいと思う。	冬にびったりな工作の事例を文章の中に入れてみたいと思 う。	「例えば、冬には雪が降るの で、雪遊びに使う道具を 作ることもできます」という文を推薦する理由に付け加えた。
児童B (ペアB)	☆この本は、パンダの住んでいるところやパンダの食べるものなど、パンダについていろいろなことが書いてあります。 ★事例を挙げて詳しく書くと、1・2年生が本の内容を想像できると思ったから。	具体的な事例を挙げてい るの で、本の内容がよく分 かると 思 う。	やはり、詳しく書いた方が分かりやすいことが理解できたので、このまましようと思 う。	下書きのまま修正はなかった。
児童C (ペアC)	☆この本は、いろいろな生き物の赤ちゃんが生きていくための仕組みが書いてあります。 ★「生き抜いていく」だと1・2年生には難しい言葉だと思うので、「生きていく」にした方が分かったと思ったから。	漢字に振り仮名を振って読めるようにしたほうがよいと思 う。	漢字に全て振り仮名を振ろうと思 う。	漢字に振り仮名を振った。

児童Aは、簡単に書いたことに対して、他の児童から「具体的な事例を挙げた方がよい」というアドバイスをもらい、新たな文を推薦する理由に付け加えて書き直していた。

児童Bは、「他の児童に認めてもらって自信がもてた」と振り返りに書くなど、工夫したことを肯定的に捉え、下書きのまま清書していた。

児童Cは、工夫して書くことはできた。しかし、指導の重点であった「目的や意図に応じて簡単に書くこと」を、「難しい言葉を易しい言葉にすること」と捉えたまま、文章を書いていた。児童Cに対しては、簡単に書くことについて説明したり、他の児童の文章を紹介したりするなど、「目的や意図に応じて簡単に書くこと」を正しく理解できるように助言した。

(3) 児童質問紙調査について

検証授業実施前後における児童質問紙調査の結果を分析した（図6）。

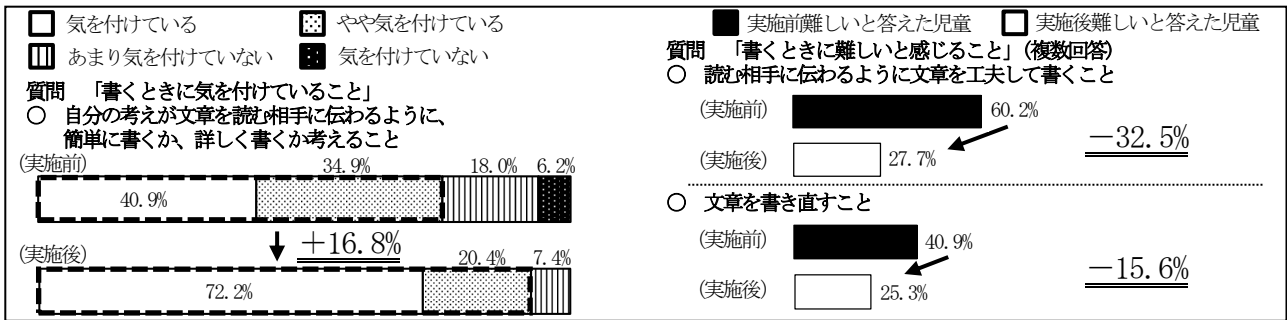


図6 検証授業前後の児童対象質問紙の調査結果 第5学年児童83名

「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること」について、「気を付けている」又は「やや気を付けている」と答えた児童が増加した。また、文章を工夫して書くことや書き直すことについて、難しいと感じている児童は減少した。

第4 研究の成果

他者と協働して「書き直す」学習活動を充実させることで、書き直し方の工夫についての意識の向上や理解につながった。また、児童は、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き直し方を工夫することができた。

第5 今後の課題

- ・ 書き直し方の工夫の示し方について検討し、学習活動の改善を図る。
- ・ 他者と協働して「書き直す」学習活動の有効性を他単元で検証し、汎用性を高める。